

### ○神奈川ホースショー

7月6日～7日、津久井馬術競技場で神奈川地区乗馬倶楽部振興会主催による「神奈川ホースショー」が開催されました。その中で今年13回目となる遠野産馬によるジャンピングカップとドレサージュカップが行われ、12頭の遠野産馬が出場しました。



2019年遠野産馬ドレサージュカップでデビュー、2位入賞したアーサー（厚木フリーンファーム）

### ○歴史を重ねて



2007年7月21日 第1回遠野産馬ジャンピングカップ表彰式

神奈川ホースショーの遠野産馬限定の競技会は、平成19年（2007年）7月にスタート。菊池栄喜生産組合長（2007年当時）始め、組合役員や大勢の生産者が応援に駆けつけました。遠野産馬による競技会設立に尽力された一人、厚木グリーンファームの柏木公平氏は「遠野の生産者に実際の競技を見てもらい、馬生産に活かしてほしい」とその目的を話しています。神奈川の乗馬クラブに遠野産馬が多く所属していたことも競技が設けられた要因の一つでした。神奈川ホースショーは同一大会の中で障害と馬場が行われる数少ない競技会

で、ビギナーも参加しやすいそうです。そのためこの競技会でデビューする若い遠野産馬もあり、後に全日本大会や国体で活躍するようになった馬も少なくありません。今年は2頭の遠野産馬がデビューしました。一方でこの競技会を楽しみに出場するライダーの方もいます。入賞者には生産組合長自ら遠野米を贈呈するなど、生産者とユーザーが直接交流できるのもこの競技会の大きな特徴です。神奈川だけでなく茨城や千葉の乗馬クラブ、JRA所属の遠野産馬なども参加して、多いときは20頭の遠野産馬が参戦しました。そして遠野からも毎年ツアーを組んで組合員が訪れ、成長した生産馬の姿に接してきました。遠野産馬限定の競技会設立から13年、今後どのようにこの競技会の歴史が積み重ねられていくのでしょうか。



## 遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ  
情報誌

No.33

2019年7月31日